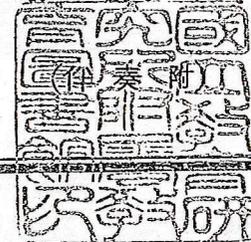


唱歌教科書



cresc.

ルソノカケカスケキハルノノヒバリ
くそのこゑにのしきはるののひばり

cresc.

P

アア / くモノクハの / ア

アホシノヨノ / アメナルフシー
あはしよの / ふしぎをさぐー

キヲサグハルカヒハリ / りてかへるかひはり

- - - - - / - - - - -

cresc.

アレアレカサナルクモ / あれあれみるまにむかー

cresc.

p

マヲソケツツハヤモソノカ / ひのをかなるしけるこやぶ

p

ケ - - - - ミエズナ - レドア - ハ / に - - - - みえずな - れこあ - は

レ コ エ ノ ミ --- ソ ラ ニ ノ --- コ ル
れ こ え の み --- そ ら に き --- こ

ゆ と く と く か に れ や あ め の ふ

ー し き
(早メニ)

(中以下四個小節省略スルコトヲ得)

落花 (参考教材)

輕快=(早ク) (g moll) *mf*

ヒラヒラヒラト ナ ル

コ イ ツ コ ニ ユ ク ラ ヲ サ ク ラ バ ナ カ ヌ

(G dur) *f*

ラ ー ス イ ハ ス ナ ガ レ ニ ク カ ビ テ

エ ー ク ー カ

美はし〜春のながめ
美はし〜春のながめ。

二、青葉をわたる風のひゞき
門邊をめぐる水のしらへ
自然なる樂を奏で
神の祕事我れに語る

美はし〜夏のながめ
美はし〜夏のながめ。

三、草葉の末にやぎる露を
眞玉と見する月の光り
人の心にかゝる雲も
はれよとばかり泣れは照るか

美はし〜秋のながめ
美はし〜秋のながめ。

四、一夜のほごに山も丘も
時じく花に埋れはてて
見ゆるかぎりは一つ色の
神のみわざの樂土なれや

美はし〜冬のながめ
美はし〜冬のながめ。

○園のあした 大童球添
(春)
一、短か夜の醒ぬ夢
鳴く鳥に喚ばれ

臥床起き出でて窓あけ見れば
薫れる朝風間にぞ通ひて
露にぬるゝ櫻は笑ひ
垂るる絲の柳は招く。

二、初霜のおさまさる
朝の庭清め
心注ぎてし園生を見れば
祟多き薫りはあたりをこめつ
濁り知らぬ白菊笑まひ
金光帯ぶる黄菊はなびく。

○鶯 大童球添
一、深山の古巢をとく〜いでて
ほゝゑみそめたる軒ばの梅に
こゑもほかにうたふ鶯
來る春忘れぬ やさしの鳥よ。

二、幸ある此世の一年なれど
再び來らん春こそなけれ
梅の花びら散らさぬほどに
その聲たえせず うたへやうたへ。

○旭の旗 大童球添
一、み空に輝やく旭のみ旗に、
み國の榮ゆる姿は見えたり。
見よや見よや白地圓かに、
赤く染めて四方を照す。
仰げや人よ、かざせ友よ、旭の光り輝く
所、かざせ日の旗。守れ日の旗。

二、旭にきらめくみ國のみ旗に、
いさはひ溢るゝ共さま見えたり。

見よや見よや赤き心を
圓くそめて、國を守る。

仰げや人よかざせ友よ、御國の民の到らん所、かざせ日の旗。守れ日の旗。

○幼 大童球添
一、眠れる幼児何を夢みる
ほゝゑむ其の顔その口もと

現世に降れる御神の使ひか
愛らしこれなる幼児。
愛らしこれなる幼児よ

二、笑へる幼児何を喜ぶ
涼しき其のこゑそのふるまひ

眞玉の眼に映るは希望か
愛らしこれなる幼児。

○里の眺め 八波期吉
一、花咲く野邊を
うねりくねり
小川の流れ
輝る日に映えて
布を晒す。

二、流の里の
彼の面 此の面
夕餉の煙
木立を洩れて
夢を誘ふ。

○あがる雲雀 大童球添
一、嗚呼み空に高く あがる雲雀よ
嗚呼この世の汚れ避けてのぼるか。
あゝ遙げき希望遠ぐこのぼるか。

二、嗚呼雲居に高く あがる雲雀よ
あゝ遙げき希望遠ぐこのぼるか。

三、嗚呼この世の人よ かれを學びて
あゝ心は清く希望遙げく。

○雲 雀 大童球添
一、緑の若草しとねにしきて
霞のみ空を歌ひつ舞ひつ
のぼりて下りて一日を送る
そのかけぬけき春野のひばり
あゝ〜雲の上のあゝ〜星の世界の
天なる不思議を探るかひばり
あれ〜重なる雲間を分けつゝ
早やも其のかけ見えずなれど
あはれ聲のみ空にのこる。

二、重なる白雲翼に分けて
のぼりしそのかけ見つつし居れば
急ぎて落ちくるかけ勇まし
其聲樂しき春野のひばり
あゝ〜雲の上のあゝ〜星の世界の

昭和三年四月十日印刷
昭和三年四月十三日發行

定價金壹圓參拾錢

不許
複製

編纂者

若狹萬次郎

發行兼
印刷者

東京市小石川區八千代町四十二番地
若狹萬次郎

東京市小石川區八千代町四十二番地

發行所

交響社出版部